

酒井俊<sup>vocal</sup>  
永武幹子<sup>piano</sup>  
FALCON<sup>guitar</sup>

2023 04月01日 (土)

開場 19:30  
開演 20:00

(2ステージ入替無)(1drink=600~)  
MC=3700+2drinks order

CAFE **B**EULMANS

世田谷区成城6-16-5 カサローザ成城 2F

03-3484-0047

mail: info.cafebeulmans@gmail.com

メールでご予約の場合、  
必ず当日ご連絡の取れる電話番号を  
ご記載下さい。



## FALCON

エフェクトを活かした空間的な音作りによる独自の奏法が話題を呼び、ウェイウェイ・ウー(二胡)、中西俊博(vn)、カルメン・マキ(vo)、鬼怒無月(g)、金子飛鳥(vn)等と共演。ジャズから台湾原住民音楽まで取り入れたバンド Eri Liao Trio に参加。ダンス、朗読、写真との共演や舞台音楽など幅広い分野に取り組み、自然や風景を描写して作った楽曲が評価を得ている。2019年 2nd ソロアルバム”美しき様々の夢”発売。

HP <http://falconguitar.jimdo.com>

## 酒井俊

1976年、伝説の JAZZ CLUB「ミスティー」で歌い始める。翌年には初めてのアルバム「SHUN」がリリースされ、センセーショナルな反響を呼ぶ。リーダーアルバムを続けて計3枚、また手元にあるなしを含めた多くのレコーディングに参加、と同時に殆ど休まずに歌う約2年半を過ごしたが、突然渡米する。2年間のマンハッタンでの生活、そして帰国。約8年間の子育てを主にする家庭生活に入る。その後、日本語の歌を積極的に取り入れた方向で渋谷毅と再会、復帰する。様々な国の様々な唄を歌い続け、阪神淡路大震災の後に生まれた「満月の夕」と運命的な出会いを果たす。「満月の夕」を歌うにあたっての賛否両論の中、何年にも渡って毎夜歌い続け、2003年には「第45回日本レコード大賞企画賞」を受賞、2004年辺りからそれまでの活動を見直し、新たな音とうたの可能性を模索中。従来の音・うたのあり方から大幅に変化すべく、即興演奏・民族音楽の影響・トラディショナルへの傾倒を反映しつつ、セッションではない継続を、演奏家たちとの終わりのない共同作業へとその時間は積み重ねられており、09年には8年振りの2枚組「Night At The Circus vol.1」を、10年には「PLAYS STANDARD vol.1」「a few little things」を制作。ジャケットは、絵本作家荒井良二氏の描き下ろしイラスト 24 作品 ..... という豪華盤を2枚同時発売する。そして12年には「螺旋階段な日常」をリリース、現在に至る。また、10、11、12年とベトナムにて歌うなど海外にても活動の幅は広がっている。

## 永武幹子

千葉県船橋市に生まれる。5歳よりクラシックピアノを始め、ヤマハ音楽教室で寄島清美氏に師事、演奏技術だけでなく、即興演奏や作曲の基礎を学ぶ。中学時代は法田中学校プラスバンド部に所属し、トランペットを担当。早稲田大学法学部入学後、同大学モダンジャズ研究会、ハイソサエティオーケストラに入り、ジャズに目覚める。大学OGのジャズピアニスト清水くるみ氏に師事。その間、さまざまなセッションに加わる。大学卒業と同時にプロになることを決意し、ジャズピアニストとして演奏に専念。現在は、増尾好秋 (guitar) Yoshiaki Masuo Group、酒井俊 (vocal) グループ、守谷美由貴 (a.sax) ベースレトリオなどに参加する他、自身のピアノトリオ”永武幹子 Trio”、”J.J.Soul” や加納奈実 (a.sax&s.sax) との Duo ユニット”Jabuticaba”をメインに、東京都内のジャズクラブやライブハウスを中心に活動している。